

新庁舎 災害対策本部運営訓練

大地震 初動を確認

1月に開庁した新庁舎で、大地震を想定した災害対策本部運営訓練を2月6日に行い、市職員と消防職員計39人が災害時の情報収集や伝達方法など、初動対応要領について確認するとともに、災害対策本部会議を開催しました。

同訓練は、和歌山県沖でM8・2の地震が発生し、市内でも大規模な災害が生じた場面を想定して実施しました。



被害状況を確認する消防職員



災害時の連絡体制を確認する市職員



災害対策本部会議の講評の様子

地震発生と同時に、市役所5階に災害対策本部を開設。本部事務局のほか、応急対策部など5つの部を設け、訓練想定に基づいて、負傷者、建物や道路の損壊、土砂崩れなどの被害情報の収集を行いました。収集した情報を市幹部に伝達し、災害対策本部会議で共有。被害状況の確認や必要な行動の整理を行い、人命救助を第一に、市民に安全確保の呼びかけを行うよう指示が出されました。このほか、訓練時の疑問や改善点についての意見交換を行うなどして、有事の際に備えました。

力を合わせて鬼退治

みその保育園で豆まき体験

2月3日は節分の日。みその保育園の3〜5歳児77人が豆まきを体験。園庭には園児の元気な声が響きました。

同園では、自分の中に住む鬼を追い払い、園児が今年一年健やかに過ごせるように、毎年豆まきを行っています。太鼓の音が園庭に響いた後、八幡市商工会青年部の部員扮する鬼4人が登場。びつくりして保育士にしがみつき、泣き出す園児も。しかし、友達に鬼にさらわれそうになると、園児は団結し、豆に見立てた玉をぶつけて応戦していました。

さんざん玉をぶつけられた鬼は降参し、園児に歩み寄って仲直り。みんなで記念写真を撮り「さようなら」と、笑顔でお別れしました。豆まきに参加した岡島千夏ちゃん(6)は「鬼は怖くなかった。たくさん玉を投げて楽しかった」と話していました。

見も。しかし、友達に鬼にさらわれそうになると、園児は団結し、豆に見立てた玉をぶつけて応戦していました。



豆に見立てた玉を鬼にぶつける園児

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

背割堤で野鳥観察

背割堤周辺に生息する野鳥の観察を楽しむイベント「背割堤の野鳥を観察しよう」が2月4日、淀川河川公園背割堤地区で開催され、親子連れなど12人が参加しました。

同イベントは、参加者に楽しく背割堤の自然を学んでもらおうと、日本野鳥の会京都支部から講師を招き、淀川河川公園さくらであい館が実施しました。参加者は、講師から貸し出された双眼鏡を手に、背割堤を歩いて探索。鳥の声

日本野鳥の会京都支部から講師

がする方向を探すと、木の上にはツグミなど草原に暮らす鳥、川辺には寒い地域に生息し本州以南で越冬するオオバンのほか、猛禽類のミサゴが魚を捕らえて飛ぶ様子も見られ、普段なかなか見られない野鳥の生態を興味深く観察していました。山下 真くん(7)は、「前にも野鳥観察のイベントに行ったことがあって、面白かったので今回も参加していました。」と話していました。

今月のこの人 市の魅力 市民目線で発信を

観光PR動画に出演

「地元のPR動画に出演できてうれしい。一市民として、八幡の魅力を伝えたいという思いで臨みました」と話すのは、女優の元谷朋子さん。元谷さんは、市が東映株式会社に委託制作した観光PR動画に出演。石清水八幡宮の紹介場面では、真っ赤な着物をまとい、同宮の神の使いで



ある鳩が描かれた扇子を手にした姿が印象的です。

「幼少期から過ごしてきた八幡市は私にとって居心地のよい大切な場所。あって当たり前前の場所であるほど後に存在の大切さに気づくもので、毎年初詣に行く石清水八幡宮や流れ橋、その周辺に広がる茶畑も、地元を離れたときに魅力を再認識する」といいます。

また「プロが撮影したPR動画は、テンポの良い音楽と鮮やかな色彩が調和しており、八幡の良さが詰まった作品に仕上がっています。動画をきっかけに自分だけの好きな八幡の魅力を見つけ、SNSなどで発信してほしい」と、自分なりの表現で地元愛を伝える大切さを語りました。

◆ PR動画は、こちらのQRコードから視聴できます。ぜひご覧ください。

